

# RKU Today

流通経済大学広報誌

AUTUMN 2010

vol.13

## 【開学45周年記念特集】

### 学部創設にみる流通経済大学

(後編)



流通経済大学

04

## 【開学45周年記念特集】

### 学部創設にみる流通経済大学(後編)

文：田畑 亨(スポーツ健康科学部講師)

08

## 「いのちの教育」研修会

指導者に求められる救急救命と生命倫理—小峯 力教授 講演より—

文：田畑 亨(スポーツ健康科学部講師)

10

【学長室だより】

## キャリア教育と「社会人基礎力」の育成

小池田富男(流通経済大学長)

12

【連載】コロンビア大学留学日記 その4・最終回

## ニューヨークで見たこと聞いたこと

「法が主人」の国

周 作彩(法学部教授)

14

## Close Up!

流通経済大学 [教職員紹介]

16

【馬場啓一のRKUウォッチング】

## 「流経大硬式野球部には素質のある選手が沢山いますよ」

—野球部・高橋直樹コーチ—

文：馬場啓一(法学部教授) / 撮影：齋藤 明(総務課)

18

【OB/OG訪問】立川が聞く。

## 飯田通子さん(1989年3月卒業・野村證券株式会社勤務)

取材：立川和美(社会学部准教授)

20

【留学生紹介】

崔 青花さん(中国出身)

## 「アパレル・ブランド立ち上げのために経営学を勉強しています」

取材：馬場啓一(法学部教授) / 撮影：齋藤 明(総務課)

21

流通経済大学校友会からのお知らせ

22

NEWS & TOPICS



## 巻頭言



天高く 馬肥える秋と、古人は言う。  
まことに秋こそ実りと収穫の季節である。  
大いに若さを発揮し、食欲を満たして欲しい。  
食事が美味しく頂けるのは若さの特権である。  
食べられるということは、それだけ充実し、  
生を全うしていることなのだ。  
先人の苦勞の甲斐あって  
日本人は飢えを克服した。  
その大いなる恩恵を忘れず、  
大学生という人生の成長期を  
旺盛な食欲で乗り切るべきである。  
それによって健康な肉体を培うべし。  
健全な精神は健全な肉体にこそ宿るのだ。



# 学部創設にみる流通経済大学

前号に引き続き、平成22年(2010)に開学45周年を迎えた流通経済大学の現在までの歩みを紹介します。

文: 田畑 亨 (スポーツ健康科学部講師)

## 流通経済大学 沿革 (1996年～2010年)

流通情報学部流通情報学科開設	4月	1996	Yahoo! JAPANがサービス開始
南台科技大学(台湾・南台科技学院)と学術交流協定締結	10月		消費税5%に改訂(1997年)
6号館竣工	3月	1998	長野オリンピック開催
山中湖セミナーハウス竣工	11月		FIFAワールドカップ・フランス大会に日本初出場
大学院物流情報学研究科物流情報学専攻修士課程開設	4月	2000	2000円札発行
トリバン大学(ネパール)と学術交流協定締結	5月		九州・沖縄サミット開催
7号館竣工	10月		シドニーオリンピック開催
法学部企業法学科(現・ビジネス法学科)、自治行政学科開設	4月	2001	アメリカ同時多発テロ事件発生
東北財経大学(中国)と学術交流協定締結	12月		ユニバーサル・スタジオ・ジャパンがオープン
坂下昇学長就任(～2002年)			東京ディズニーシーがオープン
大学院物流情報学研究科物流情報学専攻博士後期課程開設	4月	2002	EUが共通通貨である「ユーロ」の導入開始
三宅雪嶺記念資料館開館	5月		ソルトレイクシティオリンピック開催
サッカー場竣工	9月		FIFAワールドカップが日本と韓国で共同開催
東西大学(韓国)と学術交流協定締結	11月		宮崎駿監督「千と千尋の神隠し」
西北農林科技大学(中国)と学術交流協定締結	12月		ベルリン国際映画祭・金熊賞、アカデミー長編アニメ賞受賞
野尻俊明学長就任(～2008年)			六本木ヒルズがグランドオープン(2003年)
流通経済大学新松戸キャンパス開校	4月	2004	国立大学が法人化
大学院法学研究科リーガルバナンス専攻修士課程開設	4月	2005	JR福知山線脱線事故発生
大仁科技大学(台湾)と学術交流協定締結	3月	2006	第1回ワールド・ベースボール・クラシック開催(日本優勝)
スポーツ健康科学部スポーツ健康科学科開設	4月		FIFAワールドカップ・ドイツ大会開催
スポーツ健康センター竣工	3月	2007	郵政民営化スタート
自彊館竣工	4月	2008	北海道洞爺湖サミット開催
経済産業省産学連携人材育成事業に流通情報学部の「サプライチェーン・ロジスティクス人材育成プログラム」が採択	12月		北京オリンピック開催
小池田富男学長就任(～現在)			リーマン・ブラザーズの経営破綻をきっかけに金融危機が世界的に拡大
海南大学(中国)と学術交流協定締結	5月	2009	衆院選で民主党が勝利、政権交代による連立内閣の発足
スポーツ健康センター(メインアリーナ)竣工	9月		裁判員制度スタート
大学院スポーツ健康科学研究科スポーツ科学専攻修士課程開設	4月	2010	FIFAワールドカップ・南アフリカ大会開催



広場はいつでも学生の憩いの場所



1997年頃のバス停留所の様子



1993年完成の1号館



龍ヶ崎キャンパスの教室。新松戸キャンパスと授業配信システムでつながっているので、遠隔授業もできます



龍ヶ崎キャンパスの正門。卒業生も在学学生もここから大学生活がスタートしました

開学、バブル景気、そして経済不況

昭和四〇年(一九六五)、経済学部経済学科のみの単科大学として龍ヶ崎の地に開学した流通経済大学。前号の「RKU Today」で開学から社会学部開設までを紹介してきたが、この間、我が国の社会状況は、高度経済成長やバブル経済などを経験し、アメリカについて世界第二位の経済力を誇るに至った。また、ベビーブームによる人口の増加など、日本は大きく成長を遂げていった。そして流通経済大学も、この様な社会状況で活躍できる学生の育成に努めてきたのである。

しかしながら、バブル崩壊後、我が国の社会状況は一変し「失われた一〇年」という言葉で表される通り、経済不況に陥り今なお先の見えない状態が続いている。

今号では、流通情報学部開設からスポーツ健康科学部の開設までの流通経済大学の歩みを振り返る。

### 流通情報学部の開設

本学は、「流通経済一般に関する研究と教育を振興して、我が国経済の飛躍的發展を図るとともに、深く人文科学を攻究し、教養豊かな、視野の広い指導的人材を育成して、国民経済の健全化と福祉の増進を図る」という建学の精神のもと、多くの人材を様々な業界に輩出してきている。

戦後の高度経済成長を遂げた我が国では、道路・鉄道・航空などの様々なインフラ整備が整うにつれ「モノ」という流通が発達化するようになり、消費者のニーズに素早く対応するために、必要なモノを、必要な量だけ、必要な時に、必要な場所に、より安く、効率的に運ぶことが時代の要請となっていった。

一方現在では、パーソナルコンピュータ（パソコン）は、我々の生活において必要不可欠なものとなっているが、このパソコンが広く大衆に普及するきっかけとなったのが、平成七年（一九九五）にマイクロソフト社から発売されたWindows 95であるといえよう。今でも、人々

が電気店の前に長蛇の列を作り発売を徹夜して待つ当時の光景を思い出す。このWindows 95の発売によって我々は、インターネットを通して、様々な情報を入手したり、Eメールを使って瞬時に遠く離れた相手にメッセージを送信することが可能となったり、多くの複雑な処理をパソコンを介して作業を行い、効率化を図るようになった。この出来事は、まさに高度情報化社会の到来でもあった。

このような時代の要請に応えるために、平成八年（一九九六）四月に本学は流通情報学部流通情報学科を開設したのである。



2007年、学生の休憩地を増やすため学内に植樹を行いました



2009年、ゼミ合宿に利用できる自習館の完成



たくさんの学生たちのお腹を支えてきた学生食堂

### 法学部の開設

平成一三年（二〇〇一）、時代は誰もが夢見ていた二一世紀へと突入。しかしながら経済状況は、長引く不況から脱して「就職水河期」という言葉が誕生するほど、大学生の就職難が続いていた。政治では、「聖域なき構造改革」を掲げ国民から圧倒的な人気を集め、小泉内閣が誕生した。またアジア地域で初となるFIFAワールドカップ日韓大会を翌年に控え、大きく何かが変化していくことを予感させる年でもあった。

この年、本学は、四番目の学部である、法学部企業法学科（現・ビジネス法学科）、自治行政学科を開設した。グローバル化・多様化社会に伴い、様々なトラブルや問題を法的に解決する能力が必要とされるようになっていった。また、現代社会は、様々な規則やルールに基づいて社会システムが構築されているといえる。このような規則・ルールの根源は法律であり、この法律の知識は、民間企業のみならず、公務に携わる人々にも必要とされている。



### 新松戸キャンパスの開校

本学は1965年4月に茨城県龍ヶ崎の地に開学をし、時代の要請に答えながら学部学科の増設を進めてきた。また、受験生の都内志向などを考慮した第2キャンパスの設置を1990年代劈頭から検討していたこともあり、龍ヶ崎キャンパスと違って「都市型」で交通が至便な新松戸の地に新たなキャンパスを開校した。また、開校の際、「キャンパス選択制」を日本で初めて導入し、これが本学の特徴の一つとなっている。多くの大学では、学部学科でキャンパスが分かれるのが一般的であるが、本学の場合は、学部学科に限らず（現在は、スポーツ健康科学部のみ龍ヶ崎キャンパス）、入学者の希望で、龍ヶ崎キャンパス・新松戸キャンパスを選択することを可能にしたのである。

### スポーツ健康科学部の開設

流通経済大学が龍ヶ崎の地に開学してから四〇年。我々を取り巻く環境は大きく変化をし、いつしか我が国は健康志向の高まりや医療技術の進展により、世界でも有数の長寿国となっていた。この背景には、物質的なモノの豊かさよりも、健康で豊かに過ごす、QOL（生活の質）の考え方が浸透したことにもよるといえる。

高齢者が増える一方、出生率の低下により、子供の数が減少していく社会問題も浮き彫りとなる中、子供の体力低下や肥満といった問題も生じるようになってきた。また、国民全体の健康に対する関心が高まり、社会全体として運動やスポーツを指導できる指導者の養成が急務とされるようになってきた。

このような状況の中、時代の要請に応える形で本学は平成一八年（二〇〇六）四月、スポーツ健康科学部スポーツ健康科学科を開設した。



教育学習支援センターがある6階のコラボレーションルーム。困ったことがあったら相談にのってくれる先生がいます（新松戸キャンパス）



8万冊を所蔵している新松戸キャンパスの図書館。市内の方を対象に一般開放もしています



新松戸キャンパス開校当時から参加しているイルミネーション。市内を照らします



今年も盛況のうちに終わった、新松戸キャンパスの学園祭「青春祭」

### 時代の要請に応え続ける流通経済大学

開学から四五年間、時代は大きく変化する中、本学もその時代の要請に応える人材を輩出するために、学部の増設を行い、龍ヶ崎と新松戸にキャンパスを構え、約三万人の卒業生を世に送り出し、全国において中堅総合大学の地位を確立してきた。今や、全国で活躍する卒業生は、経済界のみならず、警察官や消防士、市役所職員などの地方公務員や教育業界、健康業界など多岐にわたる業種で活躍している。また、世界各地で活躍する卒業生も少なくない。

五〇周年という節目に向け、流通経済大学は、これからも我が国の発展に寄与する大学として成長を遂げていく。





### 小峯 力/こみね つとむ

流通経済大学スポーツ健康科学部教授。  
神奈川県出身。日本体育大学大学院体育学研究科修了。1986年、オーストラリアで  
ライフセービング・イグザミナー（検定官）資格を取得。帰国後、日本人初のライフセー  
ビング指導者認定を受ける。2009年、ILS国際教育委員に就任。水難救命の第一線  
で活動をしている。

小峯教授は訴える。  
「教員は救急救命のプロ  
でなければならない」と強く小  
峯教授は訴える。

にその「いのち」を親の元に返さ  
なければならず、そのためにも  
何か起きた際には指導者の適切  
な処置が求められる。  
■心肺(脳)蘇生の重要性  
事故や突発的なことで意識を  
なくし、呼吸が停止してから  
三分から四分が生死の境である  
という。この間に人工呼吸、心  
臓マッサージ(心臓圧迫)を施さ  
ないといけない。  
実は、この三分から四分が生  
死の境であることは、あまり知  
られていないため、多くの人々  
は、救急車の通報で終わってし  
まう。確かに、近年我が国の救  
急医療体制は、かなりの勢いで  
整備されつつも、通報から現場  
到着まで、平均で一二分を要す  
る現状がある。

また現在、AED(Automated  
External Defibrillator = 自動  
体外式除細動器)の各教育機関、  
公共施設などへの設置が急速に  
進められているが、この器具も  
正確に使えるようにならなけれ  
ば、ただの宝の持ち腐れとなっ  
てしまう。

研修会の当日は、小峯教授の講演の後、AEDの使用方法など、  
救急救命に関する実地研修も行われた。



小粥准教授、稲垣講師、ライフセービング部(トレーナーチーム)による実地指導

■大切な「いのち」を  
預かる職業として  
教員は、専門科目を生徒たち  
に教えるといった職業である一  
方、先述したように、生徒たち  
を預かりそしてまた、家族のも  
とに送り返さなければならぬ、  
いわば「大切な命を預かる職業」  
であるといえる。いつ何時、生  
徒が倒れる現場に遭遇するかわ  
からないが、常に生徒たちの安  
全確保に努めなければならない  
のだ。  
小峯教授は学校での死亡事故  
を減らす「予防救急」教育の重要  
性を訴えている。

## 「いのちの教育」研修会 指導者に求められる救急救命と生命倫理

小峯 力教授 講演より

平成22年8月3日、流通経済大学龍ヶ崎キャンパスにおいて龍流連携事業の一環による  
龍ヶ崎市内の小・中学校及び保育園勤務の教職員を対象に「いのちの教育」に関する研修会が開催された。  
この研修会の発端は、数年前、市内の保育園で幼い園児が命を落としてしまったという事故を受けて、  
龍ヶ崎市教育委員会より依頼された研修会で、今年で3年連続の開催となる。  
本研修会は、本学スポーツ健康科学部の小峯 力教授を中心とした本学スタッフによるものである。  
小峯教授は、日本ライフセービング協会理事長という要職にも就いており、  
全国各地の水難事故を分析し、ライフセーバーたちの指揮にあたっている。

文：田畑 亨(スポーツ健康科学部講師)

ここ数年、夏の時期になると、山や海など自然環境の中で  
の遭難で命を落とすといった内  
容がトップニュースで報じられ  
る。山岳協会のデータによると  
二〇〇九年は山岳での遭難事故  
の件数が一九六一年の調査開始  
以来最も多く、まさに非常事態  
である。これは、健康志向やネ  
イチャー志向の高まりで登山者  
の数が増え、また気軽に登山を  
楽しむことができるようになった  
反面、登山をする時の正しい  
知識を持たずに山に入ってしまった  
う人が増えたことも原因である  
う。今年七月に埼玉県防災へ  
リコプターが墜落した際、この  
取材を行うために、あまりにも  
軽装な格好で入山し、二次災害  
を起こしてしまった事故は、記  
憶に新しいところだ。

今回のテーマは、こういった  
自然環境の中で危険に遭遇し  
た際の応急手当といったテー  
マではないが、「いのち」に対す  
る意識の希薄さが、この様な  
事故を引き起こすと小峯教授  
は危惧する。  
子どもたちを預かる職業であ  
る教員は、大切な「いのち」を親  
から預かり、そしてまた、無事

**学長の活動**  
2010年5月～8月

- 5月1日**  
龍ヶ崎市たつのこスタジアム  
オープニング・セレモニー出席
- 5月12日**  
ラグビーU20日本代表壮行会出席
- 5月20日**  
埼玉県立庄和高校、鷲宮高校訪問
- 5月24日**  
学校法人日通学園理事会評議員会出席
- 5月25日**  
第207回大学協議会開催
- 5月27～28日**  
第30回体育大学協議会総会出席  
(本学開催)  
全国体育系大学学長学部長会議出席  
(本学開催)
- 6月3日**  
千葉県立船橋東高校、千葉商業高校訪問
- 6月8日**  
岡野功元スポーツ健康科学部教授への  
名誉教授の称号授与式  
学部長連絡会議開催、  
若手教員と学園長の懇談会出席
- 6月10日**  
茨城県立太田一高、日立北高校訪問
- 6月11日**  
高等教育の振興に関する懇談会開催  
(新松戸キャンパス)
- 6月15日**  
寺阪昭信元経済学部教授への  
名誉教授の称号授与式  
全学教員会議開催
- 6月18日**  
中国東北財経大学表敬訪問
- 6月19日**  
中国留学生父母懇談会出席(旅順)
- 6月22日**  
教員免許状更新講習実施委員会開催、  
社会学部教授会出席
- 6月24日**  
茨城県立水海道二高、  
私立つくば秀英高校訪問
- 6月25日**  
茨城県立土浦工業高校、石岡一高訪問
- 6月26日**  
父母懇談会講演(龍ヶ崎キャンパス)
- 6月29日**  
第208回大学協議会開催
- 7月3日～4日**  
社団法人日本私立大学連盟学長会議出席  
(京都)
- 7月6日**  
一般教養連絡会議出席
- 7月10日**  
高等教育の振興に関する懇談会開催  
(龍ヶ崎キャンパス)  
仙台地区校友会出席
- 7月11日**  
父母懇談会講演(仙台)



会人基礎力」の育成において十分機能していないため、そのついでに社会に出る最終段階で支えられなければならない。もちろん各大学は、「生涯にわたる持続的就業力」(エンプロイアビリティ)の育成に向け、それぞれ創意工夫を凝らした教育プログラムやテキストを作成し、論理的思考力やコミュニケーション能力、職業的な規範意識などを醸成する教育を行うことには、何ら吝かではない。

しかし、「家族の崩壊」(父性の喪失)や「地域社会の解体」が顕著な一九六〇年代以降の我が国において、人々が帰属意識を持つべき当のコミュニティ自体が解体もしくは脆弱化した中で、多様な他者との協働行為を可能にする社会的能力の育成に、学校教育だけでは対応することにはおのずから限界がある。そのうえ、初等・中等教育段階での偏差値を基準にした受験教育の弊害等もあり、子供たちが大人とともに様々な社会行事に参加する機会が減っただけでなく、過度に競争心を煽ることによって、他人との信頼感や共感として他者を思いやる心を削いできたことは否めない。こうした社会関係の希薄化の結果、人間の社会的営みをつかさどる大脳皮質の前頭前野(ソーシヤルブレイン)を成長させなければならぬ幼児期・少年期の大切な時期にそれを刺激するトレーニングを欠落させていけば、いかに青年期に「社会性を培う教育」を行って

も、十分な効果は得られないであろう。すなわち、たとえ政府がかつての「市場原理主義」に基づく政策を転換し、「社会の再生」に向けて公共的な政策や制度設計を行ったからといって、G・ジンメルが言うように一人一人の「心的相互作用」が活性化することとがなければ、決して「社会の再生」や進歩には結び付かないのである。ここに、「社会人基礎力」育成は、ひとり高等教育だけの問題ではなく、初等・中等教育との連携及び地域社会との連携が必要になってくる所以がある。そして流通経済大学の社会貢献活動も、十分その任を果たしていると考えている。

- 7月13日**  
国立台湾大学陳自強教授来訪
- 7月20日**  
海南大学交換留学生修了式、  
学校法人日通学園理事会
- 7月27日**  
教員免許状更新講習実施委員会、  
全学部合同サマーパーティ出席
- 8月3日**  
私立大学情報教育協会  
理事長学長会議出席(早稲田大学)



G.ジンメル Georg Simmel (1858～1918)

「形式社会学」の提唱者。ジンメルによれば、「社会」というのは、結局のところ「個人間の心的相互作用」ではない。「社会化の形式」あるいは「心的相互作用」とは、人間が目的や意図をもって他者と関わる行為のあり方のことである。政治や経済は、その「内容」ということになる。



「学長室だより」

Vol.06

## キャリア教育と「社会人基礎力」の育成

学長 小池田富男

文部科学省は、「大学設置基準」の一部改正によって、平成二三年度から全ての大学に、「学生が卒業後自らの能力を発揮し、社会的及び職業的自立を図るために必要な能力を：培う」体制を整えることを義務づけた。これは、マスコミが勝手に誤解したように、何も大学に職業指導や特定のキャリア科目の配置を義務づけたものではないが、ここ数年、大学卒業生のおよそ二割が無業者やフリーター等であり、卒業後三年以内の離職率も三割近くにまで上るとい

由々しき事態が背景にあることだけは確かである。すでに各大学は、以前からキャリア科目を正課に組み入れるなど、学生へのキャリア支援について積極的に取り組んできた。本学でも、平成一八年度の「教育課程表」の改訂で、すべての学部に通ずる「選択必修科目」としてキャリア科目を配置している。また、就職支援センター長に教員を任用することで同センターに「教育組織」としての性格を与え、いずれ専任教員の配置も必要と考えている。こ

これは、学生の就職活動に対する後方支援というだけにとどまらず、学士課程教育の重要な要素として、キャリア教育を重視しているからである。大学教育の中にキャリア科目が必要になった背景として、しばしば「バブル崩壊」後の日本経済の低迷や「就職氷河期」の到来が指摘されるが、これは皮相な見方である。事実、昨年度の段階での大学卒業予定者に対する有効求人倍率は全国平均で一・六倍であったが、最終的に内定したのはおよそ九一％ほどであり、企業は採用予定数の四割以上を採用しなかった計算になる。社会人としての基礎的能力のないものはあえて採用しないという厳選主義に立って、企業は優秀な学生の奪い合いさえ行っている。「キャリア教育」が必要な理由は、むしろ現代の若者における「社会人基礎力」の低下にある。家庭内での子育てや幼児教育、更には初等・中等教育が「社

# ニューヨークで 見たこと 聞いたこと

法学部教授  
周 作彩 ZHOU Zuocai

その4

【連載】  
コロンビア大学  
留学日記

〈最終回〉

## 「法が主人」の国

光陰矢のごとし。留学から帰国してはや1年半以上が過ぎた。この留学日記もようやく最終回を迎えた。締めくくりとして私の研究テーマでもある「法の支配」に多少関連する感想めいたことを記してみた。最後に、この場を借りて留学の機会を与えてくれた大学、そしていろいろとご迷惑をおかけした法学部の同僚の皆様方に感謝を申し上げる。シェイシェイ!

司馬遼太郎がアメリカを旅した時の手記「アメリカ素描」(新潮文庫)の中にマサチューセッツ州のプリマス(Plymouth)を訪ねた時の話がある。プリマスは、一六二〇年宗教的弾圧を逃れるべく一〇二人のピューリタン(清教徒)たちが小さな船メイフラワー号でイギリスからたどり着いた場所、「メイフラワー神話」の地である。彼らは上陸に先立ち、「メイフラワー誓約書」をつくり、憲法を制定し、政府を樹立することをちがった。「法が、主人になった。人はそれに対して服従をちがう。小さなアメリカがここでできあがった」と、司馬遼太郎は述べている。アメリカ

の専門家でも法学者でもない司馬遼太郎が彼独特の表現で、アメリカは「人ではなく法の支配する国」(“a government of laws and not of men.”一七八〇年マサチューセッツ憲法三〇条)であることを鋭く指摘していることに脱帽するのみである。

今回の私のアメリカ留学の研究テーマは、ほかでもなく、「法の支配の観点から行政による規則制定 (rulemaking) の最新動向を探る」ことであった。また、現地ですべてアメリカ人の法感覚を観察し体験することも重要な目的の一つだ。情報技術が発達している今日において文献だけでなくわざわざアメリカに行かなくても簡単に手に入るからである。

アメリカはよくも悪くもルールによって成り立っている社会であり、ルールの範囲内であれば自由だが、違反すると厳しく責任が問われる自己責任の社会でもある。これにまつわるエピソードをいくつか紹介しよう。

### ● 駐車違反の取締り

ニューヨークには駐車場が少なく、路上にパーキングメーターを設置して駐車スペースに



ニューヨークでよく見かけるパーキングメーター。アメリカはカード社会だが、こういう時のためにつねにクォーター (25セント硬貨) などの小銭をもっていないと不便である。

しているのが一般的である。駐車違反の取締りは警察のほか、市の職員などが巡回してチェックする。日本のように「線を引いて二〇分後に戻ってから違反切符を切る」なんて面倒なことは一切せず、一分でも過ぎたら容赦なく違反切符を切る。反則金は場所によっては最高二〇〇ドル超の場合もあり、反則金を払わないとさらに遅延加算金が課される。

### ● 玄関先の除雪義務

ニューヨークは豪雪地帯ではないが、けっこう雪が降る。雪が積もるとすぐ除雪車が出動し、また大量の融雪剤が撒かれる。そのため、公道では車は通常タイヤでも平気である。しかし、家の前は各自の責任で除雪しなければならぬ。「除雪は借主の責任で」ということが賃貸契約書



「メイフラワー誓約書」への署名、Jean Leon Gerome Ferris画 (Wikipediaから)

にもきちんと書いてあった。これは単なるマナーの問題ではなく、まわりの人々からもちゃんと除雪をしないと転倒事故でもあったら損害賠償請求されるとアドバイスされた。

### ● スクールバスはえらい!

交通ルールをめぐる日米の違いはいろいろあるが、スクールバスの偉さには恐れ入った。車体が大きく色も目立つ黄色というだけではない。子どもたちが降り降りする際にはバスの左横から赤いストップサインがピーンと突き出て、後続車だけでなく、前後左右すべての車が停止しなければならぬ。違反すると高額な罰金が課される。バスの運転手も違反車両を絶対見逃

さず、確実に警察に通報するという。ちなみにアメリカのスクールバスは幼稚園から高校まで運行していて、しかもタダである。

### ● 訴訟社会

「訴訟好きなアメリカ人」という話題には事欠かない。例えば、ファーストフードのマクドナルドがらみの訴訟だけでもこんなウソのような本当のことが実際に起きているのだ。

マクドナルドで買ったコーヒードでやけどをしたのは「コーヒードが熱すぎたせい」だとしてマクドナルドを訴えたおばあちゃんに約六〇万ドルの賠償金を命じられた事例。

フライドポテトに牛脂を使っているのにそのことを表示し

ていなかったとしてベジタリアンやヒンズー教徒たちが提訴し、一千万ドルで和解した事例。

自分たちが肥満になったのはマクドナルドのハンバーガーを食べ過ぎたせいだとして起こされた集団訴訟の事例本件はさすがに原告敗訴の結果に終わった。

連邦議会下院では、こうした濫訴を防ぐため、肥満を理由として消費者がファーストフードチェーンなど食品メーカーを集団訴訟などによる訴えを禁止するいわゆるチーズバーガー法案(「食品の消費における自己責任法案」)が二〇〇四年と〇五年に二度にわたって提出され、可決されたほどだ。

このように見てくると、アメ

ニューヨークでの初雪。隣近所では機械を使って除雪作業するが、私たちはシャベルを使っての体力勝負。思いのほか重労働である。



どこでも見かけるごついスクールバス。その態度はまさに傍若無人である。

リカは、拘り定規のルールによって支配され、義理も人情もなく冷酷ですらある国、というふうにも思われるかもしれない。しかし、実際は必ずしもそうではない。「法が主人」といっても、個々の場合において何が法であるかは、最終的には当事者が相対する法廷の場において裁判官が決めるからである。また、事実の認定は一般市民の中から選ばれた陪審員が行うことになっており、そこで庶民感覚が裁判に反映される。周知のように、日本でもアメリカの陪審制度を参考にして裁判員制度を導入したが、一般市民の中ではまだ裁判員になることに少くも抵抗がある。アメリカでは陪審制度の歴史が古く、人々にとって陪審員になることは特別なことではなく、選挙に行くのと同じ感覚のように見える。私たちの滞在中にも娘の高校の先生が陪審員に選ばれ、一週間ぐらい休講したが、好奇に思う人はほとんどいなかったようだ。

日本の現行法は明治維新以後西洋から移植してきたものであり、言ってみれば借り物の洋服である。これに対し、アメリカでは、法は人々の生活の中に息づいており、裁判所も日本に比べてはるかに身近な存在であるように見える。日本では「裁判沙汰」という言葉に象徴されるように争い自体を嫌う傾向があり、また訴訟費用の面でも訴訟額に応じた印紙代と弁護士への着手金が必要であり、訴訟を提起しにくい仕組みになっている。これに対しアメリカでは、裁判所への提訴費用は訴訟の多寡にかかわらず一〇〇ドル程度と安いので、個人でも気軽に訴訟を提起できる。交通違反で罰金を命じられても、日本人のように素直に払う人は少なく、裁判に持ち込んで争うことが多いようだ。とくに初犯の場合は、なかったことにしてもらえないとしても、半額程度に減額してもらえるところが多いという。

しかし、「法が主人」のアメリカでも、同性結婚や妊娠中絶など国論を二分するような価値判断が迫られる事件が増加するにつれて、法に対する信頼は必ずしもかつてのように揺るぎのないものとは言えなくなってきたように思える。



[新松戸総合情報センター]  
中里美智子 総務担当係長



[スポーツ健康科学部]  
鈴木麻里子 講師



[法学部]  
信太秀一 准教授



[流通情報学部]  
日埜博司 教授



[社会学部]  
村田典子 教授



[経済学部]  
安田 淳 教授

### 「オアシス運動」って 知っていますか?

「オアシス」=「やすらぎ」とは違い、  
オ…おはよう  
ア…ありがとう  
シ…しつれいします  
ス…すみません

私が小学校のときに教えていただいた  
ものです。当時はあまりわからな  
かったのですが、中学・高校の部活  
動を通して「挨拶の基本・大切さ」を教  
えられ、社会人になって「挨拶の重要  
さ」を感じています。

学生さんから、通勤途中やキャン  
パス内で、「おはようございます!」と元  
気な声をかけてもらうと、私まで爽や  
かな気分になるんです。若いエネル  
ギーを一緒にもらったように元気にな  
れます。

新松戸キャンパスでは、学生と朝の  
挨拶をしようと声かけをしている先  
輩職員がいます。「おはよう!」と声  
をかけられたら、勇気をだして「おはよ  
う!」と声を出して下さい。きっと1  
日が明るくなると思います。

少しの勇気で「おはよう!」そして  
「ありがとう!」。

### スポーツで地域貢献

京都女子大学大学院博士後期課程単  
位取得満期退学。専門領域は教育行政学。  
かつて小学校で教鞭をとっていた  
が、担当しているクラスで「学級崩壊」  
を経験。そのときの教育現場に疑問を  
抱き、研究の世界に飛び込んだ。

京美人の先生は、一昨年、半ば強引に?  
ゴルフを始めたのがきっかけでプロ  
ゴルファーの男性と意気投合。昨年、  
結婚、そして出産を経験し、現在は  
1児のお母さんである。

今年から「地域スポーツ研究会」を発  
足。これまでにスポーツ水鉄砲大会や  
徒競走など、地域の子もたちを対象  
に学生とともに指導を行い、様々なメ  
ディアでも取り上げられている。

現在、本学には所謂「ゆとり世代」の  
学生が入学してきている。「ゆとり」と  
は「自分で考えて自分で行動する」こ  
と。それは「自分勝手」と言い換えるこ  
とができるが、「自己責任」「自主性」と  
いう言葉にさらに進化するために、自  
分を取り巻く環境にもっと関心をもっ  
てほしいと学生には指導をしている。  
(田畑 亨・記)

### 楽しいゼミ合宿!

「法学部の教務担当の運営委員をやら  
せていただいていたのですが、お蔭様  
でこの3月で任期を終了し、ひとまず  
ホッとしています。今年の夏休みも例  
年通り、3・4年の専門演習(刑法)のゼ  
ミ合宿で、大学のセミナーハウスを利  
用して、山中湖に行きまして。ゼミは  
総勢10人ほどの小所帯ですが、女子  
学生も3人おりました、ゼミをリ  
ードしてくれます。ゼミ合宿といっ  
ても、もっぱら楽しく遊んで、親睦を  
深めることが目的です。今年はみな  
で近くの遊園地に繰り出しましたし、  
昨年は、ハイキングやテニスでした。  
夜は湖畔で花火です。全員20歳過ぎ  
なのでお酒も飲めますから、夜遅くま  
で賑やかですが、その分、管理人さん  
には毎年ご迷惑をおかけしています」

念のために付言すると、信太ゼミは  
真摯なゼミである。アットホームな雰  
囲気の授業でも知られ、履修希望者も  
多いようであるが、その一つの理由は、  
このメチャメチャ楽しそうなゼミ合宿  
にもあるのかもしれない。

### 教えながら学び、 学びながら教える

16~17世紀の大航海時代にポルトガ  
ル語あるいは日本語で記述された文書  
を日本語へあるいはポルトガル語へ翻  
訳し、それに注釈を附すという作業を  
進めています。この時代は地球規模で  
自己の見聞を書きとめたポルトガル人  
著述家(宣教師が中心)が輩出しまし  
た。だから関心を寄せるべき地理的  
範囲は、アフリカ・ブラジルから印  
度を経て中国・日本まで。正しい訳  
を得るため調べる分野も、語学・歴  
史・宗教はもちろん民俗誌・博物学  
……と実に広範であります。

こうしてたくわえた知見をわかりやす  
く披瀝したいのですが、そのときの指  
針は、この春亡くなった井上ひさしの  
座右の銘。いわく「むずかしいこと  
をやさしく/やさしいことをふかく/  
ふかいことをゆかいに/ゆかいなこ  
とをまじめに/書くこと」。

いろんな興味を有する学生を相手に  
教えてセンモンを封印できるか否か、  
これも教員の力量を測る基準のヒトツ  
と、最近よく考えます。「君子は器  
(き)ならず」。これからは多様な資  
料に取材してやさしく楽しい葡語例  
文のネタを掘り当ててつづります。

### 新聞記事から 現代社会を読む

私が担当する「児童福祉論」では、  
授業の始めに最近の児童福祉に関す  
る新聞記事を紹介している。日常的に  
新聞を読む機会の少ない学生たちと  
して、新聞が自分たちの生活にいか  
に密接に関わっているかを実感して  
もらいたいし、数行ではあるが、声に  
出して読んでもらっているので、おち  
おち寝たり、記事から目を離したり  
することもできない。

最初は「何で自分が読まなければなら  
ないのか?」という顔をしていた学生  
も徐々に慣れてきて、授業の最後に  
書いてもらうリアクションペーパーに  
「こんな出来事があったことを初め  
て知った。もっとこの問題について  
調べてみようと思う」と書いてくれる  
人も出てきている。

最近、子ども虐待、子ども手当、少  
子化問題と子育て支援、いじめや不  
登校など、将来学生たちが親になっ  
た時に知っておいてほしい記事が満  
載である。このような試みを通して、  
学生たちに少しでも自分の生活や  
将来に関心を持ってもらえたらと願  
っている。

### 謎解きの楽しみ

write(書く)に相当する現代ドイツ語  
はreissen(裂く)で、ゲルマン語初期  
の段階では「裂く」と同時に「掻く」  
の意味もありました。遥か昔の時代、  
木片や石片に「掻き」付けることが「  
書く」ことでした。こうして書かれた  
文字の意味を解く行為を表すのに、現  
代ドイツ語のratenのように「謎を解  
く」を意味するreadを英語では使う  
ようになりました。英語のriddle(謎)  
はreadから派生した語です。従って  
「文字を読む」とはまさに謎解きを  
することです。

私の研究対象は、Middle Englishと  
呼ばれるおよそ500年以上前の英語  
です。当時の英語を読むことは謎解  
きをするようなものです。先人の研  
究のお陰で謎解きも随分楽にはなり  
ましたが、それでも意味不明の箇所  
が理解できた時には、宝石を発見し  
たかのように、思わず歓声をあげて  
しまいます。常々同じ感激を学生の  
皆さんとも共有できたらと思ひ、  
教壇に立っています。



● 社会に出た時に問われるのは、その人が何を体験してきたのか、そして何ができるのかということですよ。

OB/OG 訪問

## 立川が聞く。

*Tachikawa hears.*

剣道に熱中した学生時代を経て野村證券株式会社に入社、現在は学園前支店（奈良市）の支店長として活躍されている飯田通子さんにお話を伺いました

**飯田通子さん**  
(1989年3月 経済学部卒業)  
Michiko Iida

取材 / 立川和美(社会学部准教授)



— 本学には、剣道のスポーツ推薦で入学されたんですね。  
はい、ちょうど女子の剣道部の創設期でして、市立船橋高校から経済学部経済学科に入学しました。当時全部で六〇名位の部員がおりました。  
— 大学では、寮生活を送られたのですか。  
ええ。基本的に、剣道部中心の学生生活でした。朝は五時過ぎに起床して、寮と体育館の清掃をして、六時過ぎから一時間半練習し、その後食堂で朝食をとり、それから授業に行き、授業の後にまた練習という生活でした。もちろん高校までは自宅

から学校に通っていたわけですから、特に大学一年生の時は体力的にきつかったですね。しかし剣道部の生活を通して、「長幼の序」を学びましたし、現在の仕事を進めていく中での「粘り強さ」や「我慢強さ」はこの時に培われたものだと思います。  
それから、大学の先生方や龍ヶ崎の地元の方々には、本当によくしていただきました。地元

のケーキ屋さんで、「ご飯を食べまわってくださることもありません。また、夏休みの間だけは少し時間ができるので、教職の金子先生の研究室でアルバイト

トをさせていたでいて、そのお金で剣道部の同期でおそろいのジャージを作ったりしたことなど、よい思い出です。  
— 大学の授業で思い出深いことは、どんなことですか？  
私の学生の当時から、流経大は全員ゼミ制でした。一、二年生のときには大岡先生のゼミで万葉集などを読んでいたのですが、現在、奈良で生活していて、飛鳥、平城京の時代の歴史的な建造物や仏像などにふれますと、その時に習った歌などが思い出されますね。三、四年生は寺阪ゼミでしたが、とても和気あいあいとした雰囲気でのゼミでした。剣道部以外の友達と一緒に勉強したり、いろいろな話をしたりといったことができ、とても楽しい授業でした。  
— 就職については、最初から具体的な目標を決めていらしたのですか？  
まず第一に「剣道が続きたい」と思っていましたので、そのためには教職がよいのではないかと考え、教員採用試験を受けていました。四年生になった時点

では、就職については比較的のんびりと構えていたのですが、八月の解禁日を前に（当時の就職活動は八月二〇日に一斉に開始するという企業協定が結ばれていました）、やはりきちんと就職先を考えなくてはならないと、寮の先輩方も多く進ま

れていた金融関係に絞り、具体的な活動を始めたんです。自分は、デスクワークよりも接客などの業務に就きたいという希望があったことと、当時は経済も

バブル期で景気がよかったことなどもこの業界を選択した理由です。最初に現在の会社に内定をいただき、教員になる道とずいぶん迷ったのですが、周りの方にもいろいろと相談し、最終的には自分で決めました。

— 入社後は、ご自身のキャリアをどのよう形成されていらしたのですか？  
入社してすぐに柏支店の窓口の配属になりました。当時は本

当に忙しく、密度の濃い時間を過ごしていました。もともと、性格的に引込み思案のところがあるのですが、お客様と接す

ることを通して、明るくコミュニケーションをとる方が養われました。しかし当時は、一般職の女性は三年から四年程度で退社していくのが普通でしたので、自分はこのままでいいのかという疑問や焦りはありましたね。それで、考えた末、社内の試験を受け、総合職となり、本社の人事部や研修部、愛知の豊田支店などを経て、二〇〇九年の四月から現在の支店に着任いたしました。

— 現在は、学園前支店（奈良県）の支店長として活躍ですが、男性の多い業界の中で、大変なこともありませんか？  
かと思えます。毎日のお仕事の中で気をつけていらつしやることは、どんなことですか？  
確かに、女性の支店長は全国約一七〇の支店のうち五人程度と、大変少ないです。

もちろん大変なこともありませんが、それは女性だからとか男性だからといった性別の問題ではなく、本人の考え方の問題だと思っています。同じことを体験しても大変だと思う人もい

ば、そう思わない人もいるわけですよ。周りの方々に支えられてこそ今の自分があるのですから、「変化にとんだ毎日」を楽しまなくては、と考えるようにしています。

— 現在は一〇名の部下と一緒に働いています。全員女性ですが、私は性別というよりも、能力のある人がそれにふさわしい仕事をしていくべきだと考えています。その人のキャラクターを生かすことが大切ではないかと思うんです。自分も含めてですが、人間には一人一人個性があって、長所もあれば、短所もあります。何事もそうしたトータルな視点で見ると、今、相手に伝えるべきことは何かを考えるようにしています。

— 最後に流経大生にひとことお願いいたします。  
私自身、「大学でもっと勉強しておけばよかったな」と感じる

ことが、社会人になって多いんです。もちろん、とても密度の濃い大学生活を送っていたのですが、それでも、たとえば現在の仕事でもとても重要な会計学

飯田さんが支店長をお務めになる学園前支店は、至る所にお花が活けられ、上品な調度品が置かれており、細やかな配慮が行き届いています。また、スタッフの方々も笑顔が温かく、仲の良い和やかな雰囲気な空間でした。飯田さんは、澁刺とした物腰で、インタビューにはきはきとお答えになる一方、お写真をお願いしたところ、「お花をバックにしたほうがいいですね」と可愛らしい一面もお見せくださり、魅力あふれる方でした



*Tachikawa hears.*



**RKU Schedule**  
2010年10月～  
2010年12月

**全学**

- [10月]・30・31日 つくばね祭(龍ヶ崎)
- [11月]・20日 三宅雪嶺記念資料館講演会(新松戸)

**就職関連**

- [10月]・第5回就職ガイダンス(履歴書・エントリーシート対策)
- ・4年生内定者による就職活動体験発表会
- ・留学生就職ガイダンス
- [11月]・第1回就職セミナー(企業が求める人材像)
- ・第6回就職ガイダンス(OB・OGからのアドバイス)
- ・公務員採用試験説明会
- ・第7回就職ガイダンス(面接実践指導)
- [12月]・女子学生ガイダンス(ヘアメイク実践指導)
- ・第2回就職セミナー(企業が求める人材像)

**【編集後記】**

●前号と今号の特集は、開学45周年を迎えた本学の紹介である。前号に引き続き開学以来着実な歩みを続けてきている本学の軌跡をお読みいただきたい。

●ここにきてようやく秋の到来を感じる日が少なくなってきているが、夏の記録的な猛暑の連続には正に閉口してしまっただけ。梅雨が明けた途端に灼熱地獄の日が続いた。まさに猛暑、酷暑の日が多かった。

そのころの天気予報では、日本付近を流れている偏西風が北側に蛇行して太平洋高気圧の勢力を強くしているのが猛暑の原因ということだった。この夏、エアコン、扇風機、冷蔵庫そしてビールなどが売り上げを伸ばした。

一方、熱中症等暑さで倒れた人が多数出た。昨年の冷夏がまるごとそのようであった。

また、海外でもこの偏西風の蛇行で猛暑に見まれた国が多く、ロシアでは記録的な猛暑のために森林や泥炭の自然発火による大火災が発生し甚大な被害がでた。さらには、猛暑と少雨による旱魃被害のために小麦を中心とした穀物の輸出一時禁止措置をとる事態にまで発展した。

●暑かった夏が去り、しのぎやすい秋の到来に心弾ませている今日この頃であるが、暑さで消耗した体力を回復させるには、爽やかな秋は絶好のチャンスである。

皆様のご健康を心から願う次第である。

(編集子)

**04**

**読書コメント大賞発表**

コメント大賞とは、本を読むなかで「感じたこと・思ったこと」などをポップ広告のようにコメントを作成してもらい、その中から優秀な作品を選考する企画です。

2010年度の第1回コメント大賞には、228点もの応募がありそのうち16点がコメント大賞に選ばれました。受賞作品は下記のとおりです。

**【読書コメント大賞受賞者】**

- ①社会学科1年 北島真紀「ダ・ヴィンチコード」ダン・ブラウン(角川書店) / ②社会学科2年 石井 玲「子どもの絵は何を語るか」発達科学の視点から(東山明, 東山直美(日本放送出版協会) / ③社会学科4年 光岡佑美「さまよう刃」東野圭吾(角川書店) / ④経済学科2年「リヤカーマン」地球一周4万キロを歩いた男(永瀬忠志(毎日新聞社) / ⑤経済学科3年 栗原詩歩「星の王子さま」サンテグジュペリ(新潮社) / ⑥社会学科1年 宮内綾乃「いきる」西野義子(レーヴック) / ⑦経済学科1年「変身」他一篇カフカ(岩波書店) / ⑧社会学科2年 瀧ヶ崎知彦「落ち着かない子どもたち」多動症候群への理解と対応(石崎朝世編著(鈴木出版) / ⑨社会学科2年 佐藤浩章「ボックス」(百田尚樹(太田出版) / ⑩社会学科1年 松本直弥「暦の歴史」ジャクリーヌ・ド・ブルゴワン(創元社) / ⑪ビジネス法学科1年 小川恵令奈「だから、あなたも生きぬいて」大平光代(講談社) / ⑫社会学科2年「すらすら読める方丈記」中野孝次(講談社) / ⑬スポーツ健康科学科1年 寺地裕大「FB特別捜査官」タイフェアマンの回想(藤野真功(日本文芸社) / ⑭自治行政学科1年 田村直人「図書館戦争」有川浩(メディアワークス) / ⑮ビジネス法学科3年 細矢智寛「1分で大切なことを伝える技術」(PHP研究所) / ⑯経営学



**01**

**海浜実習**

スポーツ健康科学部の1年生が、2班にわかれて沖縄県の渡嘉敷島にて海浜実習を行いました。本学に入学し初めての集団生活での厳しい実習プログラムを経験する中で一回り成長した姿をみる事ができました。



**NEWS & TOPICS**

**03**

**スポーツ健康科学部  
スポーツ方法実習  
「キャンプ」を実施**

9月10日(金)～13日(月)の期間、長野県東御市で、本学のセミナーハウス「湯ノ丸セミナーハウス」と湯ノ丸キャンプ場にて、キャンプ実習を実施しました。今年の夏は例年にならぬ異常気象で9月に入っても、各地で猛暑日を記録する日が連日続いていましたが、湯ノ丸では、既に秋が訪れており、とても過ごしやすい環境で実習を行うことができました。



**02**

**交換留学生修了式**

7月20日、本学と学術交流協定を締結している中国の海南大学からの交換留学生の修了式が行われました。今回1年間の学修を終え、修了証書を授与されたのは曹麗さんと万恵さんの2名です。



修了証書を手にする曹麗さん(向かって左)と万恵さん



**10/30(土)・31(日)  
つくばね祭開催します!**

今年も様々な企画を学生たちが考えております。みなさまのご来場を心よりお待ちしております。



※写真は昨年つくばね祭の様子。

# RKU OPEN CAMPUS 2010

2010年度のオープンキャンパスは、10月30日をもって終了いたします。在学生で構成されている学生アドバイザーの学部学科説明やキャンパスツアー、学生生活の体験談は、流通経済大学を知らない高校生・ご父母の皆様にとっては、本学を知っていただく良い機会になったのではないのでしょうか。

今後も、各キャンパスごとの入試相談会をはじめ、キャンパスツアーや各種ご相談を随時受付けておりますので、何かわからないことがありましたら下記、入試センターまでお問い合わせください。



## 学生による就職についての説明

2010年度のオープンキャンパスでは、就職について学生たちが実体験に沿って保護者の方々に説明するコーナーが設置されました。

世間で、就職難と叫ばれている現状に、本学ではどのようなサポート体制をとっているか、また学生たちが、“就活”をどのように考えているかを発表しました。



## 入試相談会

龍ヶ崎・新松戸の両キャンパスで開催中

〈平日〉 9:00～17:00

〈土曜日〉 10:00～14:00 ※開催日はホームページでご確認ください。

龍ヶ崎キャンパス：茨城県龍ヶ崎市平畑 120  
新松戸キャンパス：千葉県松戸市新松戸 3-2-1

個別に  
ゆっくり相談  
できる

## 流通経済大学入試センター

入試に関するご相談、入試相談会のお問い合わせ、  
大学案内などの資料請求はこちらまで。

TEL 0297-60-1156 (入試センター直通)

e-mail ees@rku.ac.jp

URL <http://www.rku.ac.jp/go>



流通経済大学広報誌 **RKU Today vol.13** 2010年10月発行

編集・発行／学校法人日通学園 流通経済大学企画広報室

茨城県龍ヶ崎市平畑120 〒301-8555 TEL：0297-64-0001 (代表)

